

目次

- 概要、応募資格、応募書類
- 渡航までのスケジュール
- 選考要領
- 各種義務
- 留学費用および奨学金
- 注意事項
- 今、おすすめの「アフリカ留学」!
- その他



概要

海外協定校長期派遣プログラムとは

- ✓ 本学の海外協定校に留学し、留学先大学の学生と共に正規授業を履修し、専門分野を学修、単位を取得します。(大学院生の場合、「研究留学」もあります。)
- ✓ 留学先大学の授業履修に支障ない語学力を有していることが前提のプログラムで、語学習得を目的とした「語学留学」ではありません。
- ✓ 留学に当たっては、留学先大学への出願、査証申請、航空券手配、宿舎手配、履修登録、授業料等の支払いなど、様々な手続きがあります。これらの手続きは、原則、留学先大学コーディネーターと連絡を取り合い留学生自身で行う必要があります。

概要


派遣期間および派遣人数



	交換留学 (学部・院生対象)	研究留学 (院生対象)
内容	協定校での正規授業の履修	協定校の研究室での研究活動 ※受入れ研究室は自ら探し、受入れの許可を得ること。
派遣期間	前学期出発 (韓国・オーストラリア)	(1) 2023年度後学期～2024年度前学期(1年)留学 (2) 2023年度後学期(半年)留学
	後学期出発 (その他)	

派遣人数

各大学2名程度

- 留学期間は、1年未満。 
- 協定校によって学期制度が異なるため、受入れ先協定校の学期途中での帰国の可能性もある。
- 留学期間の選択にあたっては、各学科の必修科目、教職課程や学術情報課程の履修条件を考慮し、決定すること。
(まずは、学科の先生に長期留学したいという希望をお伝えいただき、相談することをお勧めします。)



概要 学籍・単位・卒業

学籍

- 留学期間中の本学における学籍は「留学」となり、本学在籍年数に含まれる。
- 留学先協定校においては、正規の授業を履修し単位を修得することができる。

単位の認定

留学中に修得した単位は、本学のグローバル連携センター国際教育専門委員会で審査の上、他学部・他学科聴講・大学間履修等により単位数30単位を超えない範囲で単位認定を申請できる。大学院生は10単位を超えない範囲で修了に必要な単位に加えることができる。
ただし、認定される単位数は、学年・学科により異なる。

卒業時期

派遣期間のいずれを選択した場合でも、帰国後、卒業まで**最低でも半年**は本学に在籍する必要がある。

概要 その他



本学奨学金:

渡航準備金(航空券代)として、アジア圏は10万円、その他は20万円支給。

留学中の農大の学費は、諸経費を除き全額免除される。(特待生等の他奨学金との併給は認められない場合がある。)

外部奨学金:

日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度奨学金(JASSO奨学金)の申請が可能。

留学先に応じ月額6~10万円(返済不要)の支給。一定の家計条件を満たす場合、渡航準備金32万円の申請も可。

要件:(1)日本国籍又は永住権を有するもの、(2)経済的理由により自費のみでの留学が困難なもの

(3)成績評価係数が2.3以上であるもの、(4)留学先で単位を修得すること、

(5)本制度以外の派遣プログラム参加のための奨学金等を受ける場合併給が認められないこと有

JASSO奨学金受給希望者は必ず奨学金希望受付期間(10月3~12日)に、グローバル連携センターにて受付を済ませること。

応募資格

交換留学

- 1) 派遣時に本学の学部2年生以上であること(特別留学生は除く)。
学部4年の者は、次年度に東京農業大学大学院に在籍する予定の場合のみ例外的に「秋出発」プログラムに出願可とする(春出発への応募はできない)。ただし、次年度在籍しないこととなった場合には、派遣留学候補生となることはできない。
- 2) 心身共に健康であること。
- 3) 留学費用を負担できる学生であること。
- 4) 保護者および指導教員から許可を得ていること。
- 5) 通算GPA2.3以上であること。(希望留学先が別途GPA基準を設けている場合もあり)
- 6) 基準を満たす語学検定スコアを提出すること。
(基準スコアTOEFL iBT45、TOEFL ITP 450、TOEIC500 のいずれか。希望留学先が別途基準を設けている場合はその基準を満たすスコアの提出が必要)



※応募受付期間(1月7日～1月14日)に応募資格を満たす語学検定スコアを提出すること。

応募書類



- 1 留学願書(様式1)
 - 2 個人調査書(様式2)
 - 3 本学指導教員(所属学科内助教以上の教員)の推薦書(様式3)
 - 4 成績台帳(学生ポータルからプリントアウト)
 - 5 健康診断書(証明書発行機からプリントアウト)。本学での健康診断を受けていない場合は、健康診断を実施している医療機関で受け、その結果を提出すること。
 - 6 作文:「私の留学計画」(様式4)
書式:様式4を使用(A4サイズ横書き400字詰原稿用紙)
字数:800字以上1200字以内
※原稿用紙上部マス外に学籍番号、氏名を3枚全てに必ず記入すること。
 - 7 語学検定スコアのコピー
 - 8 海外派遣プログラム誓約書
- * 募集要項と応募書類は農大ホームページ⇒「国際交流・留学」⇒「国際教育プログラム」⇒「長期留学」

渡航までのスケジュール

手続き	後学期出発
募集受付期間	2023年1月7日～1月14日
選考会	2月1日
合格発表	2月後半
協定校に申請書類 (Application form)を提出	3月～4月
協定校から入学許可書 (Acceptance letter)が届く	5月～6月
ビザの申請手続き (旅行会社による代行または本人の申請)	6月～7月
航空券の手配・保険加入手続	6月～8月
出発	8月～9月

※協定校への申請時期および出発時期は留学先によって異なる



選考要領

派遣学生は、派遣先協定校において**本学の代表**とみなされる。留学生の選考は、グローバル連携センター国際教育専門委員会が慎重に行う。

選考の内容は以下のとおりである。

1. 留学計画に関する作文
2. 本学学業成績
3. 語学能力
4. 個人面接: 留学生選考の最終審査として個人面接を行う。面接は面接官複数対学生1名。



Zoomで受験。

各種義務

1. 留学中の報告 計4回の報告書をメールで提出すること

- ① 出発してから1ヵ月後
- ② 出発してから3ヵ月後
- ③ 出発してから半年後
- ④ 出発してから8ヵ月後(半年間留学の場合は④は不要。)

報告書はホームページ等、大学広報物に掲載する。



2. 帰国後の提出書類:

	帰国後1週間以内に提出する物	帰国後1か月以内に提出する物
	海外留学帰国届(様式8)	留学先協定校大学の成績表(英文)
		留学先協定校大学あるいは学部発行の修了証書
		単位認定申請書(様式9)
		留学に関するアンケート(様式10)
		帰国報告書(様式11、和文)
		帰国報告書(様式11-2、英文または現地語)
		農大学報の投稿用原稿

3. 帰国報告会参加

帰国後、次年度留学参加希望者に対する募集説明会を兼ねた帰国報告会で、帰国報告を行わなければならない。

4. 留学先での専門科目履修・単位修得

留学費用

留学費用は、留学先により異なるため「海外協定校受入れ条件一覧」を参照のこと。

注意：留学期間中、派遣先でのアルバイトは禁止されています。



注意事項



派遣先国および受入れ大学の事情による派遣の取止め

- 政情不安、暴動、テロ、天災、大規模犯罪の多発、疫病の流行など派遣学生の安全が確保できない状態が発生した場合は、派遣を取止めることがある。
- この他に受入大学の事情により派遣条件が合わずに中止になる場合がある。
- 外務省海外安全情報のうち「危険情報(治安情勢)」がレベル2以上の場合は派遣中止となる。ただし、「感染症危険レベル」のみがレベル2または3の場合は、一定の条件を満たすことを条件とし派遣可能となる。

JASSO海外留学支援制度奨学金の受給希望の方

- 原則、JASSO奨学金は海外安全情報レベル2以上の国・地域への留学には支給されない。

留学希望者向けプログラム

- TOEIC L&R, S&W(オンライン) 団体受験 (詳細は9/15付学生ポータルお知らせで確認)
TOEIC, TOEFL, IELTSなど受験したことがない方は、まずTOEIC団体受験がお勧め！
受験期間: 10/ 24(月)～28日(金)10時～17時、申込〆切: 10/6(木)
- TOEFL iBTライティング講座 (1月上旬に学生ポータル上に申込案内を掲載予定)
英語圏への長期留学希望者には必須TOEFL iBTのスコアをアップさせたい人向け！
2/20(水)～2/22(金)の3日間集中講座(対面/オンライン) 参加費:3,000円(予定)
- TOEFL ITPテスト(団体受験)
TOEFLの団体受験で、TOEFL iBTより安価に受験できます。
11/26(土)、2/25(土) 受験料: 5,140円(予定)

今、おすすめの「アフリカ留学！」

令和2年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」

～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～

アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム

農大×アフリカ「食と農のグローバル人材育成プログラム」

概要：東京農業大学とアフリカ協定校との連携を強化し、双方向の学生交流を活性化させる。これにより、日本人学生にアフリカをフィールドとした実践的な学びの機会を与えると同時に、アフリカ協定校学生が日本で最新の農学・栄養学を学び、国や地域を超え学生間で議論する機会を創出することで、アフリカの食と栄養改善に貢献する次世代リーダーを育成する。

期間：2020年12月～2025年3月

参加大学：東京農業大学(日本)、ソコイネ農業大学(タンザニア)、ジョモケニヤッタ農工大学(ケニア)

アフリカの食・農・文化の多様性



農業生態(栽培)の多様性



種・品種の多様性



文化の多様性



食の多様性

アフリカの食と栄養改善に貢献する 次世代リーダーの育成

世界への発信の場
リーダーシップ・コミュニケーション能力・語学力

Collaborative Learning Programs (集中プログラム)

食と農と環境を考える世界学生サミット (ISS)
世界の農学系大学生とのディスカッション
Comprehensive International Education Program (CIEP)
日本・アジアの食・農・環境について実践的に学ぶ

現地での実践の場
洞察力・行動力の育成

受入プログラム

★長期交換留学★ 半年～1年間
東京農大での専門科目履修、研究室活動、日本語学習、インターンシップ他
★短期プログラム★ 2週間 (ISSとCIEPを含む)
最新の農学・栄養学、食・栄養に関する政策・歴史等を学ぶ特別プログラム

派遣プログラム

★長期交換留学★ 半年～1年間
SUA又はJKUATでの専門科目の履修、フィールドワーク、インターンシップ他
★短期プログラム★ 2～3週間
講義・学生交流、ホームステイ・フィールドワーク、インターンシップ、協力隊活動視察他

オンライン・オフラインを最大限に活用する

食・農に関するProject Based Learning (PBL)

ワークショップ
問を立てる能力・課題発見能力の醸成

アフリカの食・農課題(例)



農業生産性・持続性



気候変動



加工・物流



ICT



生計



栄養



健康

東京農業大学が保有するソリューション (教育資源)



厚木キャンパス



世田谷キャンパス



北海道オホツカキャンパス

多領域にわたる農・生命科学研究を展開する3キャンパス



亜熱帯から亜寒帯まで多様な気候をカバーする農場施設



最先端の栄養・健康科学 最先端の農業生産技術



生物資源ゲノム解析センター

アフリカの主要農業大学



ソコイネ農業大学 (SUA)
タンザニア



ジョモケニヤッタ
農工大学 (JKUAT)
ケニア

日本の農学系総合大学

東京農業大学

次世代グローバル人材とは

1

課題を設定・解決する能力

異なる視点や価値観を理解、認識し、認めることができ、自らが置かれている環境とは異なる視点からも課題を検討できる力を持つ。

2

英語力・コミュニケーション能力

多様な背景を持つ人々と考えを伝え合うコミュニケーション能力を持つ。

3

リーダーシップ

ローカルかつグローバルな視座で持続可能な発展のための行動を起こすことができる態度と能力を持つ。



次世代グローバル人材の将来像

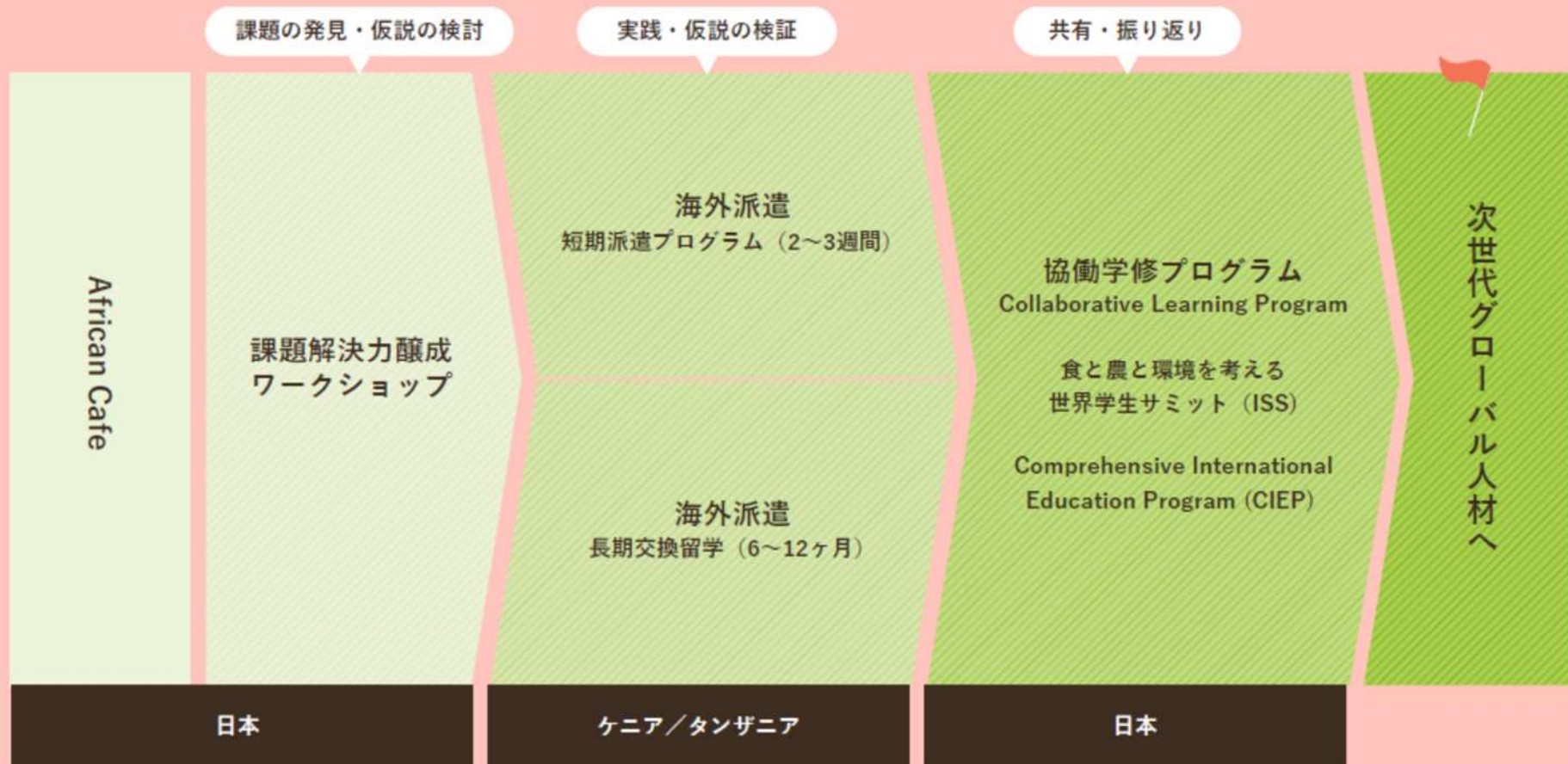


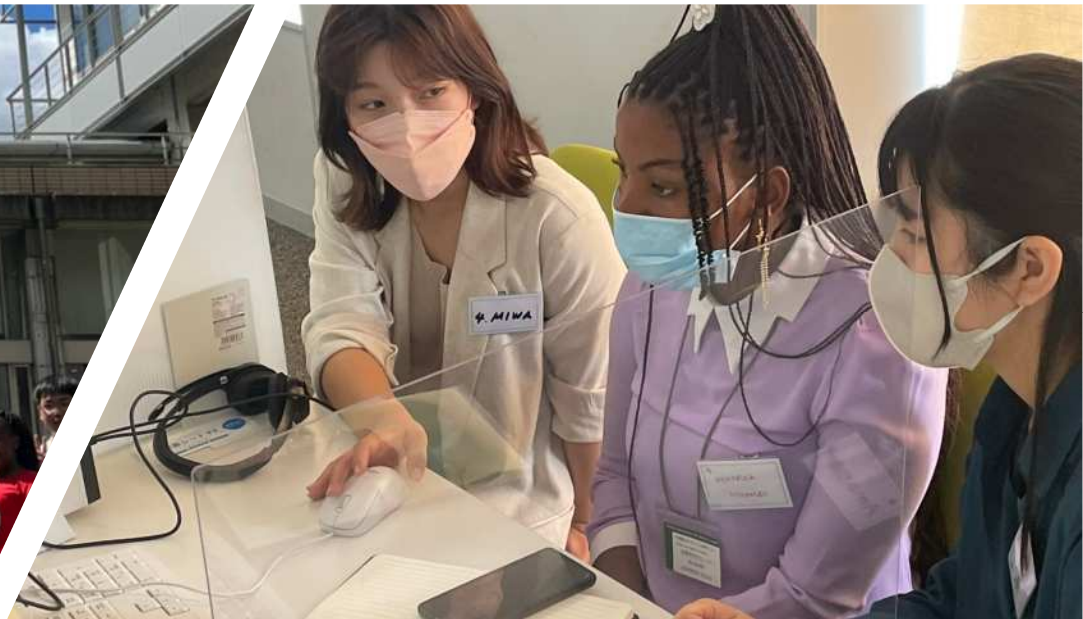
食と農のグローバルビジネスの架け橋になる起業家・産業人材

国際協力機構 (JICA) や国際NGOの事業に参加する開発専門家

国際的な研究機関 (国際熱帯農業研究所 (IITA)、Bioversity、国際農林水産業研究センター (JIRCAS) や国内外の大学で研究する研究者

「食と農のグローバル人材育成プログラム」のながれ





留学費用および奨学金(アフリカ)

留学費用

留学先	本学学費	留学先授業料	1学期あたり生活費(目安)	学生寮
ソコイネ農業大学	免除 (諸会費を除く)	免除	約10~20万円	有
ジョモケニヤッタ農工大学		免除	約20~30万円 (ゲストハウス代込)	無 (学内にゲストハウス有)

奨学金

- 本学奨学金:20万円(渡航準備金として出発前に支給)
- 外部奨学金:JASSO奨学金 月額6万円(返済不要)が支給される。一定の家計条件を満たす場合渡航支援金32万円も。

※JASSO奨学金を受給するためには一定の要件を満たす必要がある。

- 要件:(1)日本国籍又は永住権を有するもの、(2)経済的理由により自費のみでの留学が困難なもの
(3)成績評価係数が2.3以上であるもの、(4)留学先で単位を修得すること、
(5)本制度以外の派遣プログラム参加のための奨学金等を受ける場合併給が認められないこと有





後学期の国際プログラム

～食と農のグローバルリーダー育成プログラム～

●課題解決力醸成ワークショップ

アフリカ諸国が直面している諸課題について理解を深め、諸課題の発見から仮説の設定・検証、そして解決にむけた考え方を学び、フィールドで実践できる力を身に付けていくことを目的としたワークショップです。

全5回 11/12(土)AM,11/17(木)夕, 12/3(土)AM,12/22(木)夕,2/8(水)AM

応募受付 10月中旬、選考(面接)10月下旬

*ジョモケニヤッタ農工大、ソコイネ農大学生へのインタビューも行います。

*2023年2～3月に派遣予定の短期プログラム タンザニア、ケニアコースの参加には、本ワークショップ受講済みであることが条件となります。

●African Café

10月末まで本学に滞在しているジョモケニヤッタ農工大、ソコイネ農大計4名を囲んだ交流会や、オンラインでアフリカ協定校と繋いだOnline Exchangeを開催します。

CGI公式LINE、学生ポータルで案内します。お気軽に参加ください。

問い合わせ先

グローバル連携センター
後藤 ・ ブーシェ

Phone: 03-5477-2560

E-mail: shogaku@nodai.ac.jp



